発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番 ③3034番
編集兼発行人　澁田紀生
年間600円　送料共

三池CO患者遺族を守る会ニュース

〈第五号〉

CO患者を見舞って

私たち二十名は熊大にCO患者を見舞に行き直接会って話をしてきました。

足がケイレンをおこし手にひきつりがおこる人

言語障害で話ができなくて敬礼だけをする人

年令をきいても自分の歳もわからない人

カッとなると理性でおさえることができなくなって乱暴してしまう人

日常生活においても三十分ぐらい過ぎると自分が何をいったかも忘れてしまう人

本を読んでも頭に入らないため同じところばかり読んでいる人

おくさんの顔もわからず、楽しいことといえば、ただ病院から外にでるときだという人

そして、この病院生活がいかにきびしく、冷たく、患者にとって耐えがたいものかを察しることができました。こういう中で治療を受けなければならないのならば、病院とは一体、なんのための、誰れのためのものなのでしょうか。

受川さん、宮嶋さん

重傷の受川さん（二十六才）は目と耳はいいのですが、言葉がいえません。楽しいテレビが好きで、落語などは見るととても喜こび、彼女の話をすると笑います。また環境が変ると眠れなくなり怒ってしまう。お母さんはたった一人の肉親であるこの受川さんがかわいくてしかたがない様子が言葉のはしばしにうかがえて私たちの心をうちました。

一番重傷の宮嶋さん（二十八才）は息をしているだけで、ノドは切り開かれ、そこから息をし、タンを取っていました。食事は鼻から五十センチの管を通し流動食をながしこみます。手足はねじれほんとうに廃人同様でした。ケイレンをおこしたときは、どのように両親が世話をしても良くならないそうです。

私たちはいままで、自分なりに食事はお母さん以外の人がすすめても食べません。こういう状態の中で治療はマッサージとケイレンはき気をおさえる栄養剤だけです。

社会を変える闘いとして
CO闘争を共に闘い抜こう

静岡県　小谷幸代（まなぶ会参加者）

まなぶ会の総括集会で報告する小谷幸代さん。その報告にみんな心を打たれた（1月27日於大牟田労働会館）

肌で知った会社の態度

宮嶋さんのお母さんは私たちにこう訴えました。

「私は勉強しとらんが、目も見える耳もきこえる。会社側の態度は肌でわかります。会社は自分たちがわるかったとは一度もいわない。四百五十八人が死亡したのは事実ですし、爆発したのも事実です。それを原因不明だからといって肉親が会いにいっても会ってくれない。こんなことがあってもいいと実感しました。

宮嶋さんのお母さんは苦しんでいることが生きている証拠だともいっておられました。廃人同様になっているCO患者を、人間として認めさせるために、そのことで自分たちも人間として生きていくために、この闘いを家族ぐるみで、組合全体で闘っている三池の仲間たちの美しさは、患者同志の対話の中にも心を打たれるものがありました。

本を読んで理解していたつもりですがそれ以上でした。

社会を変えていく

五体満足で、会社に出て仕事をしていたのに、突然もう仂けない体にされ、仂けないならといって首にしたり、賃金の差別をする。保障を打ち切り人間を人間として扱わないいまの社会の実態を、CO患者はこの上もなくあらわしていると思いました。

私たちの職場の中で、どんな小さなことでも同じようなことがあると思います。「CO患者を守る会」を通じて多くの仲間と話し合い、自分自身の問題として、全労仂者の問題としても考えられるように活動していかなければならないと思います。

そして、人間を人間としてあつかわない合理化に反対し、労仂者をもっともっと組織し、社会を変えていくのが私たちの任務だと思います。

病と闘う患者、会社や政府と闘う家族、組合員の闘いを私たちは実際にこの目でみて、耳できいてきました。

三池の火を職場に、地域にもちかえり、火をもやし、労仂者階級が勝つその時が、このCO患者の闘いの意義が立証できるときだと思いました。

まなぶの仲間たちよ、いっしょにがんばりましょう。

いのでしょうか。かっては裁判所も信じていましたがそれ以来信じません」

CO患者は生き証人

私たちはこの合理化による犠牲者（CO患者）と会って、このことは絶対にゆるせない！という一言につきる気持になりました。受川さん、宮嶋さんたちが入院しているから、廃人同様だから、かわいそうだから助けてあげるという同情だけでなく、全労仂者の問題ではないでしょうか。資本・会社側の労仂者に対する合理化攻撃であり、労仂者階級への弾圧としてもっとも露骨にあらわれてきたものだと思います。

その生き証人としてCO患者と遺族を守る闘いをしなければならない。

熊大入院中のCO患者を見舞い
まなぶ会の代表ら

第六回三池にまなぶ全国集会は全国各地から二百三十八名（その他沖縄から二名）の参加者をえて行なわれた。

このなかから一月二十六日に二十名、二十八日に十一名の青年たちが熊大入院中のCO患者の人たち（西田さん、受川さん、宮嶋さんら）を見舞った。

この報告は二十六日参加した小谷幸代さんが、二十七日の「第六回三池にまなぶ会総括集会」で報告したものである。

熊大で実際CO患者をみた人たちの印象はとても強く、小谷さんの報告のほか、二十八日の参加者はつぎのように語っている。

「なんともCO問題は聞いていたが、百聞は一見にしかずだ。CO守る会を必ず作る。CO患者の扱いは人間の扱いじゃない。ましてあの人たちをクビ切るなど人間ではない。そんなことを考える者はタタキつぶす以外にない」（北海道、村上さん）

「宮嶋さんに会ったときは、ご両親とも話はできなかった。本人は意識不明だが、もし意識があるならどんな気持だろうと思うと声も出なかった。合理化というものは何かを知った。同情やカンパだけでなく、私たち自身が生きるために闘おうと呼びかけて、守る会を作りたい」（岩手、葛山さん）

「三池CO患者を守る会」に入会された方々

（一月五日現在）

武谷　三男　東京都練馬区
山田輝美香　延岡市妙見町
河野　愛三　宮崎県東臼杵郡
早瀬　昭男　延岡市恒富町四
中井　寿一　延岡市本小路五一
甲斐　直志　〃　高野町八三〇
甲斐　安平　宮崎県西臼杵郡
斉藤　修一　延岡市大野町
（以上十名社青同延岡支部）
橋本　義基　諫早市金谷町
門田ハヤ子　佐賀県佐賀郡
杉本　省吾　北海道瀬棚郡今金町
金丸　篤美　宮崎市吉村町
下地　頭所　宮崎県北諸県郡
西村　一美　宮崎市宮脇町
戸高　武俊　宮崎郵便局
浜島　蕉　小林市仲町
森田日佐人　日向市日知尾
嶋岡　伸好　〃
金丸　悦夫　串間市西方
野村　竜雄　宮崎市松橋町
山田　純　玉名市立願寺
藤原　文明　筑紫郡筑紫野町
藤原　延子　〃
藤原　登　大牟田市東谷社宅
永松　政光　〃
永吉　節雄　〃
広瀬　芳雄　大牟田市機野
江藤　範雄　熊本市健軍町
本橋　成一　東京都中野区
東口よしえ　北九州市八幡区
川崎　寛治　衆議院議員
滝沢　堅子　長野県東筑摩郡
等々力敬子　〃
田中美智子　名古屋市南区
田中　忠　〃
崎田　照男　〃
片岡　善司　千葉県船橋市
下村　次義　水俣市八幡町
前広　基成　荒尾市月田
内田　光之　福岡市舞鶴
峰　喜平　千葉県船橋市
峰　喜代子　〃
岩下　静昌　千葉市蓮張
小田　業広　〃
高臣　亮祥　三重県三重郡
矢野喜久代　〃
松永　克義　三重県四日市市
松浦　充　〃　津市
土門　志美　〃　四日市市
倉田　吉志　〃
宮田　進　三重県三重郡
砂金　常敏　埼玉県所沢市
中野　義人　東京都練馬区
橘　幸英　〃　国分寺市
（以上三名中野区守る会）
鈴木　寿男　横浜市磯子区
品田　清一　〃　西区
佐々　俊郎　〃　南区
藤田　修二　〃　保土谷区
伊藤　隆充　〃　磯子区
時川　政夫　〃　戸塚区
高橋　又吉　〃　磯子区
大畠　貞雄　〃
中島　三良　〃
安土　修郎　横浜市中区
園山　砂雄　〃　磯子区
高木　義雄　〃　中区
佐々木澄子　〃　磯子区
松永　靖彦　〃　南区
石井　金吾　〃　港北区
大倉　治博　〃
藤村　規子　横浜市鶴見区
和田　文明　〃　磯子区
小島　政美　〃
（以上十九名横浜交通守る会）
甲斐　久義　延岡市細見町
若藤　拓男　〃　大瀬町
片寄　一法　〃　萩町
稲村　数義　荒尾市緑ケ丘
岩本　正秋　大牟田市笹原町
松下　忠臣　熊本市中原町
酒井　善為　荒尾市楓町
西島　春雄　熊本市田崎町
中山　弘規　〃　城山上代町
小野幸次郎　〃　健軍町
陣内　康夫　〃　春竹弥生町
柴田　徳義　〃　御幸笛田町
津島　幸生　〃　京町
藤崎　久男　〃　出水町
本田　啓吉　〃　新屋敷町
中村　晋　〃　北坪井六
西　年行　〃　竜田町
常見　康博　〃　大江町
淵上　芳部　〃　島町
山下　勝　大牟田市新勝立町
白石　洋子　中間市下大隈
福岡　義博　鎌倉市佐助
延長　卓男　大阪大大淀区
安武　研　吹田市桃山台
西田　博　大阪市城東区
中尾　幸蔵　〃　東淀川区
山本幸三郎　高槻市芝生町
末次　益蔵　〃
宮崎　良勝　〃
池田富士雄　〃　津之江町
井上　弘二　雲塚市米谷
井上　茂行　守口市八雲
吉井　丈司　大阪市東淀川区
（つづく）